

12名の力を地域振興に、そして、町づくりに…

第4期生『伝統文化クリエイター』の育成開講

平成24年度地域人材育成ダイヤモンドプラン事業 「ふるさと只見・人材育成講座」



▲開講式での講座

開講式・第1回講座

7月3日に只見地区センターで開講式が行われ、主催者あいさつで、渡部仁一教育委員長職

只見町教育委員会が主催し行なっている「ふるさと只見・人材育成講座」事業も3年目を迎え、今年度は、第4期生の講座が始まりました。受講テーマは「伝統文化クリエイターの育成」で、町民の皆さん12名が講座に参加されます。

務代理は「災害を乗り越え、たくましい人材を育成していく。町の伝統文化に触れ、学び、豊かな心を持つ人になってください」と述べ、目黒町長は「皆さんの力や感性が磨かれ、人生の豊かさが向上されること、そして、この講座で学ばれたことが今後の地域振興に生かされることを願っています」と述べました。その後、受講生一人一人の自己紹介と決意表明があり、それぞれの「志」を話され、開講式は終了しました。

引き続き、第1回の講座が開かれ、「人間はどう生きるか!」をテーマに「葩島隆司」氏（公益財団法人モラロジー研究所）の講演が行われました。これから、2年間の研修を受けられる12名の皆さんに、意気込みや思いを聞きましたのでご紹介します。（9ページに掲載）



趣旨

教育委員会では平成22年度より役場各課などと連携し、地域人材育成ダイヤモンドプラン事業を開始しました。この事業は、豊かな人間性を養うことや、基本的な知識、専門性、新たな課題への対応力など幅広い能力を身に付けることで、地域のリーダー的人材を育て、将来、その方々が多方面にわたり町づくりをサポートしていくことなどを本事業の目的としています。

実施期間

この人材育成講座を受講された方々が活動されることにより、只見町がさらに元気で活気のある町になることを目指し、本事業を継続して行なっていますので、町民の皆さんのご協力とご支援をお願いします。

平成24年度から平成25年度までの2年間の研修期間となります。

第4期生『伝統文化クリエイター』平成24年度カリキュラム

回数	実施日	講師	内容
1	7月3日(火)	公益財団法人モラロジー研究所 生涯学習本部講師室顧問 葩島 隆司 氏	「開講式」 人間としてどう生きるか!
2	8月2日(木)	株式会社 明天 貝沼 航 氏	「学ぶ：基本的な考え方」 ～地域を愛し、出番を創る～
3	調整中	視察研修先関係者	「学ぶ：他地域の事例から」 ～先進事例研修～
4	9月10日(月)	株式会社 明天 貝沼 航 氏	「調べる」 只見町歴史文化遺産発見フィールドワーク
5	10月31日(水)	株式会社 明天 貝沼 航 氏	「創る」 只見町ヘリテージ活用観光プログラムづくり
6	調整中	松下政経塾 (塾生及び塾員など)	「体験研修」 日本を動かす松下政経塾（茅ヶ崎）を探る
7	12月11日(火)	受講生主体	「カリキュラム検討会」 来年度の講座内容を受講生で協議し計画する

○都合により内容が変更になる場合もあります。（8月1日現在の計画です）

12名の受講生の思いは…



五十嵐 成明さん (只見)

長期間の講座なので、自分なりに2年間で最後まで受講できるよう頑張りたい。



目黒 信さん (埼玉県在住・只見出身)

講座に積極的に参加し、只見の伝統や歴史を学び、只見町の文化の担い手になるだけでなく、只見町と首都圏の人達を結ぶコーディネーターとしての役割を果たしていきたい。



角田 勝太郎さん (小林)

古いものに執着せず、只見にしかないもの、出来ないものを考え、あるいは先取りした「元祖〇〇」を発信していきたい。



本多 一恵さん (只見)

私は食文化等に興味があるが、どのように若い世代に伝えていけるのかな〜と、そんな手段を学ばせていただきたいと思う。温故知新の境地である。



鈴木 サナエさん (只見)

小事徹底、雑事真剣…ちょっと苦手、でも一つ一つ頑張ります。伝統文化に興味があるし、その「心」を学び子どもたちや孫に伝えていきたい。そして講座を優先し出席します。学びます。



渡部 悦子さん (小川)

私は只見の昔話を捨てたくないし「昔話の会」も復活させたいと思っている。そのためにも只見の伝統文化について関心を持ち理解し伝えていくお手伝いがしたいと思う。



吉津 美都里さん (長浜)

与えられた環境・仕事をして年をとっていくより、何かを考えたり自分にできることを見つけれられる良い機会になると思う。只見町の伝統というものをほとんど知らない私ではあるが楽しく学んでいきたい。



上村 貞江さん (長浜)

受講したことを近隣に語り、郷土愛とまとまりのある社会を作りたい。そうした中で「自分に何ができるのか」そのヒントも生まれてくれればいいと思う。



新国 万寿美さん (只見)

自分で思っているだけではなく、実際に行動に移せるような方法を学んでいければと思う。沢山のことを吸収して将来に繋がられるよう頑張りたい。



長谷部 友喜さん (蒲生)

只見のことについて、今の自分は知らないことが沢山ある。只見の歴史・伝統を学ぶとともに、次の世代へ伝えられるノウハウを学んでいきたい。



黒田 晶子さん (蒲生)

「良い機会なので頑張るか」と思うし、「焦らずゆっくりやっていけばいいかな」とも思う。私自身は、ぜんまい折りと、もみの技術を受け継いでいきたい。



佐藤 雅幸さん (小林)

この機会に一つでも多くのことを学習したいと思う。また、学んだことを青年団活動などを通して若い人達に伝えていきたい。